

学会総会, 1980. 11, 静岡.

32) 富川正樹, 上山武史, 申 東奎, 森 明弘, 関 雅博, 龍村俊樹, 宮崎幹也, 山本恵一, 岩 喬: 我々の行っている腹部大動脈—腸骨動脈閉塞症に對する外科治療の変遷, 同上学会.

33) 山本恵一: 臍・十二指腸領域における外科的疾患, 新湊市・射水郡合同医師会講演会, 1980. 2, 新湊.

34) 上山武史: 循環器外科の現況, 砺波市医師会講演会, 1980. 3, 砺波.

35) 上山武史: 閉塞性動脈硬化症の手術法の変遷について, 大阪血管外科同好会, 1980. 6, 大阪.

## 外 科 学 (2)

教 授	藤 卷 雅 夫
助 授	伊 藤 博
講 師	田 沢 賢 次
講 師	齊 藤 寿 一
助 手	阿 部 要 一
助 手	田 近 貞 克
助 手	真 保 俊
助 手	藤 田 敏 雄
文部技官	広 田 早 苗

### ◆ 著 書

1) 藤卷雅夫: 逆流性食道炎(1)—胃全摘後の再建法からみて一, マルホ消化器外科セミナー(6): 5—6, 日本短波放送内容集, 1980.

2) 藤卷雅夫: 胃・十二指腸の疾患, 医師国家試験のための外科重要用語事典: 687—713, 金原出版, 1980, 東京.

3) 藤卷雅夫他: 消化器大量切除—胃癌に対する胃全摘出, 臍脾合併切除, 外科病態生理: 535—542, 南江堂, 1980, 東京.

4) 曾我 淳, 藤卷雅夫他: 逆流性食道炎の病理—生検材料による診断—, 外科 Mook (14): 26—38, 金原出版, 東京.

5) 田沢賢次: 人工肛門局所管理における皮膚保護剤の役割, 療法のしおり: 67—73, 互療会, 1980, 7.

### ◆ 原 著

1) 伊藤 博, 齊藤寿一他: 外科領域における piperacillin の臨床的研究—胆汁内移行を中心に—, 診療と新薬 17(11): 3121—3125, 1980.

2) 伊藤 博他: 肝門部胆管癌を中心とした悪性黄疸の治療, 第8回日本胆道外科研究会プロシ-

ディング: 93, 1980.

3) 伊藤 博他: 術後嘔吐・食欲不振—外科医に必要な薬の使い方—, 外科 42(11): 1259—1263, 1980.

4) 田沢賢次他: 人工肛門受術者の皮膚保護剤(2)—皮膚保護剤カラヤゴム製品による管理, 看護技術 26(7): 30—34, 1980.

5) 田沢賢次: Enterostomal therapist について, 日本大腸肛門病学会誌 33(5): 569—576, 1980.

6) Tazawa K., et al.: Characteristics of S. L. C. and AH 109 A cell response to radiofrequency energy in vivo, 第39回日本癌学会総会記事: 347, 1980.

7) 田沢賢次: ガン細胞を殺す電波加温法, 新栄養 125, 38—43, 1980, 3.

8) 田沢賢次, 真保 俊, 宗像周二, 坂本 隆, 藤卷雅夫他: Radio-frequency を用いた生体加温装置と実験腫瘍への効果—ラットの実験腫瘍に対する発育抑制効果—生体電磁環境とハイパーサーミア研究会, Na 2, 5—6, 1980.

9) Tazawa K., Saito J., Ito H., Shinbo T., Fujita T., Fujimaki M.: Buffer action and bacteriostasis of Karaya gum as skin protector for enterostomal therapy, VIIIth. BIENNIAL CONGRESS of the INTERNATIONAL SOCIETY of UNIVERSITY. COLON and RECTAL SURGEONS, P. 105—106, 1980.

10) 唐木芳昭他: 3'-Me-DAB 投与ラット肝組織中の分泌細胞の光顕的, 電顕的観察, 第39回日本癌学会総会記事: 285, 1980.

11) 阿部要一他: 閉塞性黄疸における凝固—線溶系—減黄術および根治手術前後の変動について—, 血液と脈管 11(2): 305—308, 1980.

12) 佐々木公一, 唐木芳昭他: 教室における食道癌に対する外科治療の現況, 新潟医学会誌 94(3): 181—189, 1980.

13) 奈良井省吾, 田近貞克他: 胃・十二指腸潰瘍症例の酸分泌動態に関する再検討, 胃分泌研究会 12: 5—6, 1980.

14) 高橋 浩, 藤卷雅夫他: 食道癌手術前後の栄養管理—主として術前栄養管理を中心に—, 新潟医学会誌 94(9): 639—641, 1980.

15) 川口英弘, 阿部要一他: 胆嚢癌症例の検討, 日消外会誌 13(1): 45—51, 1980.

16) 梨本 篤, 唐木芳昭他: メピチオスタン投与により著効を呈した再発乳癌の1例, 癌の臨床 26(4): 382—385, 1980.

17) 阪本恵子, 田沢賢次他; 人工肛門受術者の皮膚保護(3)—皮膚保護剤バリケアによる管理—, 看護技術 26(7): 35—38, 1980.

#### ◆ 学会報告

1) 藤巻雅夫: 腹部外傷の外科的治療について, 昭和55年度救急医療施設医師研修会, 1980. 10. 富山.

2) 藤巻雅夫: 術後乳び胸について, 第15回手術手技研究会, 1980. 11. 東京.

3) Soga J., Fujimaki M., et al.; Analysis on preoperative combination BLM and radiation therapy. The 1st international society for disease of the esophagus, 1980. 11. 東京.

4) 松本三千夫, 藤巻雅夫他: 壊死性褐色細胞腫の1例, 第105回日本内科学会北陸地方会, 1980. 9, 金沢.

5) 伊藤 博他: 胆管癌を中心とした悪性黄疸の治療, 第8回日本胆道外科研究会, 1980. 10. 宮崎.

6) 田沢賢次: 人工肛門の諸問題—皮膚保護剤について—, 第5回新潟大腸肛門懇話会, 1980. 4. 新潟.

7) 田沢賢次他: 電磁波エネルギー加温によるS. L. C. およびAH109 A細胞のin vivoにおける組織学的変化, 第39回日本癌学会総会, 1980. 6. 東京.

8) 田沢賢次他: Bufferation and bacteriostasis of karaya gum as skin protection for enterostomal therapy, 第8回国際大学結腸直腸外科会議, 1980. 9. メルボルン.

9) 田沢賢次: 本邦におけるストーマ療法士の現状, 第十二回互療会全国総会, (新潟市) 1980. 6.

10) 田沢賢次: スキンケア (人工肛門) の理論, 第一回日本ストーマリハビリテーション講習会 (東京), 1980. 11.

11) 田沢賢次, 真保 俊, 宗像周二, 坂本 隆, 藤巻雅夫他; Radio-frequency を用いた生体加温装置と実験的腫瘍への効果—ラットの实验腫瘍に対する発育抑制効果—, 生体電磁環境とハイパーサーミア研究会, (日本ME学会, 専門別研究会) 1980年7月11日, (東京)

12) 斉藤寿一他: 実験食道癌の初期粘膜変化の内視鏡的・組織学的観察, 実験食道癌に関する厚生省班会議, 1980. 7. 東京.

13) 斉藤寿一他: 胃全摘術に対する回盲部上行結腸間置術, 第1回富山消化器病研究会, 1980. 9. 富山.

14) 斉藤寿一他: 胃全摘・回盲部上行結腸移植に

おける食道の病態生理, 第32回日本気管食道科学会総会, 1980. 11. 千葉.

15) 斉藤寿一他; 陥凹型早期胃癌の拡大観察, 第211回, 新潟外科集談会, 1980. 11. 新潟.

16) 田中三千雄, 麓 耕平, 斉藤寿一他; 拡大ファイバースコープによる粘膜計測, 第35回日本消化器内視鏡学会北陸地方会, 1980. 6. 福井.

17) 窪田芳樹, 斉藤寿一他: 食道カンジダ症における色素法の有用性について, 第36回日本消化器内視鏡学会北陸地方会, 1980. 11. 金沢.

18) 唐木芳昭他: 副腎原発褐色細胞腫の微細構造, 第12回日本臨床電顕学会, 1980. 8. 大津.

19) 唐木芳昭他; 3'-Me-DAB 投与ラット肝組織中の内分泌細胞の電顕的・光顕的観察, 第39回日本癌学会総会, 1980. 11. 東京.

20) 唐木芳昭他: ENNGサル実験食道癌における初期粘膜変化の内視鏡的・組織学的・電顕学的観察, 第2回実験食道癌に関する厚生省班会議, 1980. 11. 富山.

21) 高橋修一, 曾我 淳, 唐木芳昭, 梨本 篤, 武藤輝一: 生検の問題点, 第31回乳癌研究会(福岡) 1980. 2.

22) 大山慎一, 唐木芳昭他: 症例2の手術々式に関する考察—内側部乳癌の手術成績と胸骨旁リンパ節郭清の意義について—, 第32回乳癌研究会, 1980. 1. 東京.

23) 田近貞克他: 各種輸液剤の胃分泌に及ぼす影響, 第31回新潟消化器病同好会, 1980. 2. 新潟.

24) 田近貞克他: 各種輸液剤の胃分泌に及ぼす影響とその機序に関する検討, 第15回日消外総会, 1980. 2. 福島.

25) 田近貞克他: ハイネックス—Rの使用経験, 第2回ハイネックス—R (食道) 研究会, 1980. 11. 東京.

26) 奈良井省吾, 田近貞克他: 胃・十二指腸潰瘍症例の酸分泌研究会, 1980. 3. 東京.

27) 奈良井省吾, 田近貞克他: 十二指腸潰瘍に対する外科治療成績—選択的近位胃迷切十幽門成形術を中心に—, 第210回新潟外科集談会, 1980. 5. 新潟.

28) 真保 俊他: 食道癌に対するペブレオマイシン, ベスタチンの使用経験, 第5回制癌問題研究会, 1980. 12. 金沢.

29) 藤田敏雄他: 嚢胞形成性褐色細胞腫の一例, 第210回新潟外科集談会, 1980. 5. 新潟.

30) 藤田敏雄他: 脾臓に突破した稀有なる脾嚢胞腺腫の1例, 第187回北陸外科学会, 1980. 9. 金

況。

31) 藤田敏雄他：肝癌及び肝門部胆管癌 7 例の治療と成績，第211回，新潟外科集談会，1980. 11，新潟。

32) 麓 耕平他：食道炎の内視鏡像，第35回日本消化器内視鏡学会北陸地方会，1980. 6，福井。

33) 麓 耕平他：ルゴール不染部位の実体顕微鏡像，第 6 回食道色素研究会，1980. 11，東京。

34) 麓 耕平他：早期胃癌の拡大観察，第36回日本消化器内視鏡北陸地方会，1980. 11，金沢。

35) 永瀬敏明他：骨盤内照射後の Radiation Colitis に発生した直腸癌の 1 例，第187回北陸外科学会，1980. 9，金沢。

36) 桐山誠一他：肝癌及び肝門部胆管癌 6 例の治療成績，第16回中部外科学会総会，1980. 8，松本。

37) 桐山誠一他：肝癌および肝門部胆管癌 6 例の治療成績，第 1 回富山消化器病研究会総会，1980. 9，富山。

38) 桐山誠一他：胆道悪性腫瘍の治療成績—肝門部胆管癌を中心に—，第43回日本消化器病学会北陸地方会，1980. 11，金沢。

39) 坂本 隆他：術前診断し得た直腸カルチノイドの 1 例，第43回日本消化器病学会北陸地方会，1980. 11，金沢。

40) 吉田真人，佐藤敏他：異所性乳癌の 1 例，第211回新潟外科集談会，1980. 11，新潟。

41) 新井英樹・浅利和成他：男子乳癌の二例，第211回新潟外科集談会，1980. 11，新潟。

## 脳 神 経 外 科 学

教 授	高 久	晃
助 教 授	遠 藤	俊 郎
講 師	岡 伸	夫
助 手	甲 州	啓 二
助 手	神 山	和 世
助 手	平 島	豊
助 手	堀 江	幸 男
文部技官	中 山	八州男

### ◆ 研究概要

昭和55年 4 月の開講以来，種々の脳神経外科的疾患の病態・治療法の解明を目ざし研究を勧めているが，基礎的研究を中心とした主たるものは以下のごとくである。

脳血管障害：1) 脳血管攣縮の原因物質としてオキシヘモグロビンあるいはスーパーオキシドのもつ

病的意義および神経因子の関与。2) サルを用いた新しい脳血管攣縮モデルの作製。3) 脳虚血状態における組織的フォスフォリパーゼ変化に関する生化学的検討，および各種薬剤の作用機序と効果判定。4) 出血性梗塞の病的意義，5) 頭蓋内外血管吻合術，血栓内膜除去術，頸部交感神経切除術など脳梗塞に対する外科治療法の検討。

脳腫瘍：1) 悪性脳腫瘍に対する ACNU およびチオプロリンの効果。2) Angiotensin II および Mannitol 併用による各種抗ガン剤の腫瘍内移行度に関する実験的研究および臨床応用の可能性。

小児奇型：水頭症の新しいモデル開発および脳血流・代謝変化の持つ病的意義。

その他：水素クリアランス法改良による新たな脳血流測定法の開発。

### ◆ 原 著

1) 児玉南海雄，藤原 悟，堀江幸男，嘉山孝正，鈴木二郎：Moyamoya 病における Transdural anastomosis—Vault moyamoya. 脳 神 経 外 科 8 : 729—737, 1980.

2) 平島 豊，佐藤 壮，遠藤里見，小田辺一紀：学童期慢性硬膜下血腫の 1 例，山形済生会医誌 5 : 29—34, 1980.

3) 甲州啓二，吉本高志，鈴木二郎：脳梗塞急性期における血行再開に伴う出血性梗塞—実験的研究—，Neural Med. Chir. 20 : 935—938, 1980.

4) 岡 伸夫，児玉南海雄：植物状態患者，重症患者管理ハンドブック，臨床編，178—187.

5) Endo S., Takaku A., Aihara H. and Suzuki J. : Traumatic cerebral aneurysm associated with widening skull fracture—Report of two infancy cases. Childs Brain 6 : 131—139, 1980.

6) 桑原健次，遠藤俊郎，岡田 仁，桜井芳明：内頸動脈後交通動脈分岐部漏斗状拡張を思わせる小動脈瘤破裂の 2 例，脳神経外科 8 : 551—555, 1980.

7) 岡田 仁，遠藤俊郎，神山和世，鈴木二郎：Oxyhemoglobin による攣縮脳血管壁微細構造の変化，脳神経外科 20 : 573—582, 1980.

8) 神山和世，鈴木二郎：脳血管攣縮に対する活性酸素の関与，虚血と細胞障害—活性酸素フリーラジカル—，医歯，出版，101—104, 1980.

9) Kamiyama K., Sakurai Y. and Suzuki J. : Case report : Aneurysm of the posterior communicating artery itself Report of successfully treated case. Neurologia Medico Chirurgica 20 : 81—84, 1980.